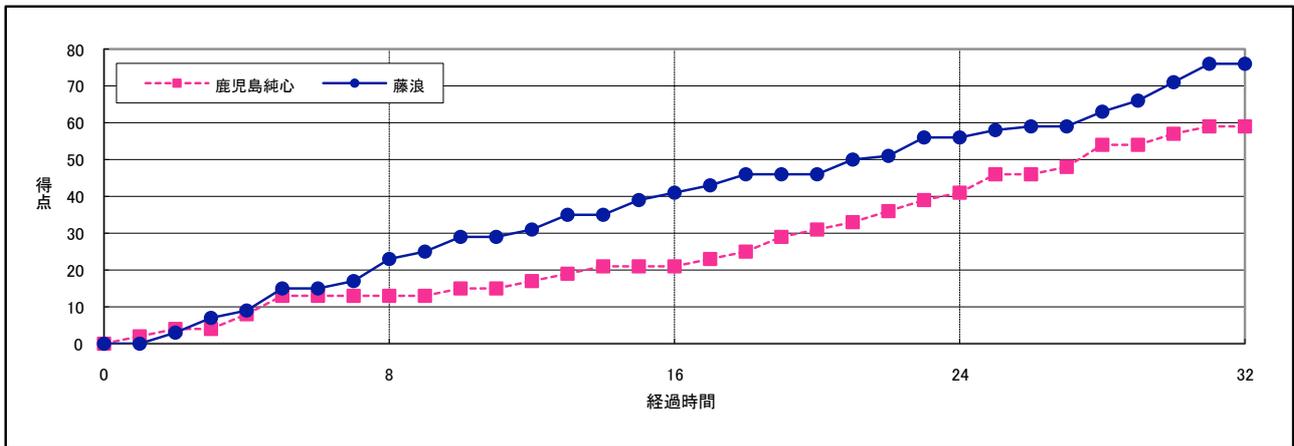


平成21年度全国中学校体育大会
第39回全国中学校バスケットボール大会



試合区分	1日目 女子 Eコート第1試合 予選リーグI																					
日時	8月20日(木)		9:30 ~																			
会場	サンアリーナせんだい																					
結果	鹿児島純心 鹿児島		<table border="0"> <tr> <td rowspan="5">}</td> <td>13</td> <td>1st</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2nd</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>3rd</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>4th</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>OT</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		}	13	1st	23	8	2nd	18	20	3rd	15	18	4th	20	OT			76	藤浪 愛知
}	13	1st	23																			
	8	2nd	18																			
	20	3rd	15																			
	18	4th	20																			
	OT																					
審判	主審 中村 浩仁		副審 真久 聡子																			



【個人トータル表】 ×=スターティングメンバー / =出場選手

空欄=出場なし

鹿児島純心							
No.	選手氏名	Pl-in	得点	3P	2P	FT	反則
4	新保 宏奈	×	12	0	5	2	3
5	中山 好美	×	12	0	6	0	5
6	鶴木 優佳	×	14	2	4	0	0
7	菊永 里奈	/	0	0	0	0	0
8	荒川 菜摘	/	3	0	1	1	3
9	四郎園 未央	×	7	0	3	1	1
10	吉元 奈央	/	0	0	0	0	2
11	駒走 木の実	×	9	1	3	0	2
12	永吉 美香子	/	0	0	0	0	0
13	大原 美海	/	2	0	1	0	0
14	川原 弓佳						
15	田中 沙奈						
16	四郎園 明夏						
17	迫 ちひろ						
18	福留 菜穂						
監	小園 裕之						
C	前田 孝一						
合計			59	3	23	4	16

藤浪							
No.	選手氏名	Pl-in	得点	3P	2P	FT	反則
4	立岩 侑奈	×	12	0	5	2	3
5	仲 鉢 咲	×	8	0	3	2	2
6	額 額 那月	×	28	0	12	4	2
7	能勢 ひかり	×	8	1	2	1	1
8	柿 並 唯	/	0	0	0	0	1
9	田中 亜季						
10	近田 菜津紀	/	0	0	0	0	1
11	加藤 千晶						
12	松橋 樹						
13	逢坂 歩美						
14	山本 美緒	/	1	0	0	1	1
15	東 美緒	/	0	0	0	0	0
16	米納 千晶						
17	徳原 ちひろ						
18	佐藤 ひかる	×	19	0	7	5	3
監	鷲野 鋭久						
C	伊藤 秀樹						
合計			76	1	29	15	14

3P=3ポイントシュート 2P=2ポイントシュート FT=フリースロー

第1P. 純心は#5のゴール下のシュートで初得点をあげる。一方、藤浪は#7のフリースローを一本決め得点をあげる。藤浪は、#4、#5のファーストブレイク等で得点を重ねていく。純心は#9のゴール下のシュートや#11の3Pで得点を重ねるが、攻め手を欠き、残り2分間得点が止まってしまう。逆に藤浪は#18のゴール下のシュートや#4のファーストブレイクで得点をあげていき、13対23で藤浪が10点のリードをつけ終える。

第2P. 藤浪は#6、#18のジャンプシュートで得点を重ねる。一方、純心は藤浪のマンツーマンディフェンスで苦しみ、約1分間得点が止まる。純心は#4のドライブシュートで得点するが、その後も、攻めてを欠きなかなか得点できない。藤浪は、#6のリバウンドシュートや#18のファーストブレイク等の速い展開のバスケットを行い得点を伸ばし、21対41で藤浪20点リードで前半を終える。

第3P. 純心はオールコートゾーンプレスからハーフコートにディフェンスを変え試合の流れを変えようとする。この作戦が功を奏し、藤浪のファーストブレイクの数が減り、得点差がひらかなくなってきた。しかし、藤浪もディフェンスを頑張り、純心に15点差より点差を縮ませることはなく、一進一退の攻防を繰り広げ、41対56で藤浪が15点のリードで終える。

第4P. 純心はディフェンスをオールコートゾーンプレスに戻し、#6の3P、#5のゴール下のシュート等で流れを引き寄せた。藤浪はハイポストからのシュートが入らなくなり一時、50対59の9点差までつめられるが、藤浪は#6のファーストブレイク等の走るバスケットで最後は粘る純心を振り切り、59対76で藤浪が勝利を収めた。